

## 産褥早期のマイナートラブルの様相 ～身体的側面に焦点を当てて～

田丸 喜代子（応用看護学）

**【キーワード】** 産褥早期 マイナートラブル 様相  
半構成的面接法 身体的側面

本研究の目的は、産褥期の看護支援を検討するため、産褥早期のマイナートラブルの様相について身体的側面から明らかにすることである。

研究対象者は経膈分娩で出産した産褥3～5日目の褥婦28名であり、うちマイナートラブルを自覚した26名を分析対象者とした。

研究デザインは半構成的面接法を用いた質的帰納的研究である。データの収集期間は2020年3月から6月であり、一人1回行った。インタビュー時の産褥経過日数の平均は3.7日であり、インタビューの平均所要時間は14分であった。

分析方法はまず録音したインタビュー内容を逐語録にし、褥婦が感じたマイナートラブル（身体的違和感や不快感）の表現を抽出しその内容の分類を行った。次に内容分類ごとの自覚時期や対処行動について明らかにしたのち、それらの様相を検討した。

結果、以下の事が明らかになった。

1. 褥婦が感じた産褥早期マイナートラブルの内容は【動作時や姿勢保持の不安定さや困難感】【腰部や骨盤周辺の違和感や痛み】【陰部周辺の違和感や不快感】【排泄に関する違和感や不快感】の4カテゴリーに分類された。これらは、分娩終了後から産褥3日目までに自覚しており、【動作時や姿勢保持の不安定さや困難感】【腰部や骨盤周辺の違和感や痛み】では、骨盤ベルト装着等の具体的な対処行動がとられていた。一方【陰部周辺の違和感や不快感】【排泄に関する違和感や不快感】では、対処行動をとらず、我慢している状況が見られた。
2. 産褥早期マイナートラブルの様相をその内容ごとに見ると次の特徴が見られた。【動作時や姿勢

保持の不安定さや困難感】【腰部や骨盤周辺の違和感や痛み】では、分娩直後から自覚することが多く、褥婦の身近にある情報や看護者のアドバイスなどを得て対処行動をとるという特徴があった。一方、【陰部周辺の違和感や不快感】【排泄に関する違和感や不快感】では、分娩後の初回トイレ歩行した後に自覚することが多く、褥婦が表現しにくいものであり、かつ外見上の異常が見られないことから、対処行動がとりにくい特徴があった。

以上より、褥婦は、産褥期早期には、【動作時や姿勢保持の不安定さや困難感】【腰部や骨盤周辺の違和感や痛み】【陰部周辺の違和感や不快感】【排泄に関する違和感や不快感】のマイナートラブルを自覚することがあり、対処行動をとりやすいものとそうでないものがあった。特に、【陰部周辺の違和感や不快感】【排泄に関する違和感や不快感】では、褥婦が表現しにくく対処行動がとりにくいものであった。産褥期早期のマイナートラブルへの看護支援においては、これらの様相を考慮した支援が重要であると考えられる。